あさゆふ

佛を安置する丈夫の品孔雀の羽かりて
まこと我つくるもんたちしめ屋をよ　とすとや
福芝高明無量寿いのちとし　ちよ月たらみ孫
をとうまし　まあめ留木ちの玉魂をなくさもうう
をあ　をやしを庵孔あうるゆうる水生行の費
白を法あ四方の使をうも弘誓おとうもちう
ひと笑うの迫福ま法一をとうふまと一人う
ふ孔をうとあり一宜言園のうのうひとかう

慶英文庫

あさひらいべ　寺上留木　編

福芝高明　得善　一月　知迫　善善

安政五年
八月十二日

安永ころを添此ころ於三危に諸ふりの撰
ありし頃さもしまよ宮日記一集まつる
して撰中小祥忌を営む其撰集追ぬ古ち
万歳の讃経に於いてまもなるも貴ななかんとこと
申あり世にお風しつぬ摂つる国にある撰をてこるよ
天ちらしりを志るもよのおり　僕かやつ乳画書
其庵ちく俳子つきまへ穢し世乃下みとり句をよ
云此集撰出つ穢んハ立派なのよ玉を残ことなる不躍

いたハきんとれと草更り風雅子むこ實を備へ百ゆる由
当末乃俳子流て撰つ百しあり流そせ給名をも
此冊子ちあられて後もこ満吟子志らんて千載
迄てくゆこかり撰者路のこ

安政六未年仲秋

寳富自記

貝母　本草和名

[illegible]種二品あり葉八百合の似て細く葉末
蔓の如く花八月開淡黄色実八草藭 実なれども
根の形交趾の二片相合て圓く白色なり一重へ
花淡白にして根よろ殖多く生ず

春蕗膳　春拾遺

陽地に多く小草出一寸ばかり毒有
花は形ち蕗に類して
ちいさくして甚小根短
小草の本草彙言の石蕗
膳に充るべし

福芝齋句墓

故
祇南齋南枝撰
井上留木校

西日射す事なく毒紙 [illegible]
猿蓑之家如[illegible]
[illegible]
人あり[illegible]
[illegible]
はつ[illegible]
[illegible]

法代は寒ゐし御新世の初かな
ゐ降や粥の音はつ小松茶ゝさま
若菜や日よもの空おきちひ見れし
若菜の仕着ふておとす 多白 一印
高巡や 松乃ゝ万歳ゐ見とゐゐ
鶯ゐめや先未廣り かくわつゝ
當まやあきぬ衣乃もめそうし 春有
春は和比やく門出の松ゐゐ四子ゝま風巾
乱まれ街比ゆうちまさ坂りう変水世のめく登
あのつゝまぬしきみは胡ゐ哉

居藤ん鉢先うさまくつゝけ空
行と毎して あつわも寒や 茗茶
鵜ん何うと望き移する 保之
末の中の芹の俵のしつく代
鯉桶のう拠のき移す 雪解 の印
言葉笑ん柿 暖簾も古ありけり
のゝれうる人ふうて 入る小豆の印
橋ゆうん 年うたぬ新 日ん のと禾
草やうそくとこの叶ふ数 あゆゆうた
やあゝうれ 多ん 未方年ゝ 笠京 の印

よしなしめぐり家郷過し
笑ふやとりにすゝ傘持
六菊や咲ふほし負生れ蓑
つくし 樹の下笑ひ取りて庖
よつさりと 梢よ白し鶯れ 梅
よかし一つうまめてうめハ笑ふも郷
雪の春 白いよれぬうめの花
来る春と立笑ひ多く未来の春
　花中女
おもぬるり菓子をすゝやうめれ花

鶯れ鳥くもゆりけ うめの花
柳けや岸れにかり我れやしけり
わきし水 柳をかて おせしまゝ
枝のぬぬ 登りたり多くまれ学
家猫もにゐの中ゆききめ 春の鶯
白里を わすかて見えるき心しつ
うくひすりしきめ 墻根れ梢かり
萬や おもいさ 多くを 春に生れ
うき飛ぞや ふりてかて おいの声かな
　雲以海居士十三回

鶯やかふれむしろきに汗こほれく
まろしと伸し柳かや柳雀

雛子犬坊の鼻

寄る波に左右へわかれて揚雲雀
まつ出てやうら残や春の雨
うき動きて見する心の春に鶯かれ
なかれつゝむかし春つのかけ 春の日
つ先や種井にうへ此 春の月
風操りや外ふハ田畑に人似れし

凧中いゝやりつきかえて春こゝろ
人先う花島白 嬉し 春の風
春の日や 掾うちかけし 鍬の照

江の峰

黙能と岩屋分筆ハ 帰る日の雛
はつ午や うきのうつす 浦もの
春雨や鳥のきちかひの新凧し
春霞やたくまゆ又出信 家一ふけ
春山鳥白我うまへ近在や 春たちて
我のよれや ふやく 西の芸すし

菓子や小さいけ入て持て行
聖れ多うへすらぬやうにと
勅ありてすぐらしてさよはつ意

飯津

こうやうめ海苔こうあ茶菜こはを
傘てゆく山のあをやぎ雅るの影
きめるや菖の色うすぎて花
菓子年為新乃事ゆるれ
栖作のあをう備ゆる菓子
月をあるあるゆくの黒き代

きはふるゆ世一新の黒き代
餅の菓や ゆく野き傘
はつ年れ暑ものをしるむう
涼うて麦菓うてゆるれ
為蓑うもう夜新ゆゆ餅の邦
為たれとうつを逢もや傘四月
餅の年や買人つ寄る雅の新
椽先うう形つをやれ千物
形きや形るゆう根のうく
白のけて精を蓑きうれ

[illegible]

上野

人[illegible]

四殿山

眼や[illegible]

水神の森

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廊中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]や はつの海
[illegible]や 明ぬ春の水
[illegible]先や はつの水
海棠や 高燈[illegible]吹の新
[illegible]て [illegible]高[illegible]菜指北
山[illegible]山[illegible]山[illegible]
やまぶきの細枝[illegible]や 恰のひと
寄[illegible]や 蓮のはのもの[illegible]
蘇[illegible]あ[illegible]社[illegible]

天保[illegible]の[illegible]

出つるき 蛙の[illegible]や [illegible]の[illegible]
蓮合[illegible]や 蓮[illegible]

[illegible]
是人の[illegible]
[illegible]
の[illegible]

佐保姫や [illegible]
[illegible]

[illegible]や [illegible]の[illegible]

細辛 和名比支乃祢久佐 俗ニ唐細辛と称するもの葉ハ加茂の葵ニ似て紋理多く
水鼈(すっぽん)の形ニ似て微尖り冬ニ一葉或ハ二葉生し一葉の
間ニ花を開く花形圖の如く根細くして辛し上品

白月形のごとゆや芋雑ニ煮めるほや
ゆめ形ハぬきゑ月よ形や衣ゑく
結あ手人の形ちまよ はつ形いと
玉川ハ石をきよめ法反ニ雑
形ニ花も神の形ニ花や大天面
編まゑりまきゑ自然の姿ハ
形ゑ尺ハ 何里東ハ味 ハ則まつ形面
まつ花をまくちうを牡丹花
いまをゑ形ちまをうをゑ命

たゝいちやまだぬ桑の若葉かれ
清けまるの月夜に若葉かれ
香さるゝし木ゝまであめる若葉たち
若葉かなや涼しき東風の吹こゝし
うの花や山かげの雲白ふ
菜中もふる水のまゝや桐のはれ
鐘の鳴る雲城ちぢや桐の花
おちる露をまとめや藤子花
雲一夏や春秋の若葉まで種あまたれ
苗うへや家籠離れし声の跡

初茄子夢の数かしこきとまり
朝霧や夕雲やまつ郭公
木のまに宿りかへて杜鵑
力くきれ波にもよらぬ若かれ
朝やにま春若葉屑のちらまに朝茶
たまきれ季も香の声白をかれ
郡風呂焚くまのすゞしさ子
雲の月更けるを忘るや夜の月
若の立ち吹雪の鶴やらず松の月
夜毎しや水鶴みよすゞ雲のゆく

あと先に行かぬ懐のこぼれ
めぐみかな　無銭に籾乃まゝかな
以余玉や身にしみそめて出りやう

綾瀬橋をあなたにわたし嘆きし起きたり
船あがりし堀切の菖蒲の寺に
至りしまハとよみ人まねて風来たりし
振菜わきまきちらしたる村紺ぬ

聲たてむ水鶏の宿や花あやめ

世ふ雪りてもやまぶきに此庵中に
植橋きて まさに一段のあはれしを越ゆり

香を残るまくらのあはれや花菖蒲

比なり乃ころあをたむ乃田植哉
笛ならしあのあそびする田植の帰
人の言ひまゝ行く身や竹植哉
刀も脱げ模乃小庵の五月雨
まかりのぼりて　入ぬ木下闇
突あたりし宙にたまるや栗の花
空見るも見ゆるかりや一葉の紅

蓮生ひし経紙たるかり
折のまゝ幾の高さへおの紙也
あそびける

青鷺乃竹笛にまむや雨あかゐ

[illegible]

[illegible]

行[illegible]や [illegible]れの[illegible]う [illegible]て

川開

[illegible]

水[illegible]

[illegible]

振[illegible]や 一[illegible]の[illegible]水

[illegible]の[illegible]う 徒[illegible] 炊婦人

[illegible]

[illegible]の[illegible]

石[illegible]や [illegible]う 先の[illegible]

白[illegible]や [illegible]

[illegible]や [illegible]

[illegible]や 太[illegible]の[illegible]花の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]八[illegible]家の[illegible]白

川[illegible]

[illegible]新や [illegible]の[illegible]

[illegible]新や [illegible]飯

ゆの新やあの草ゆ富ゆ六百
蓮生や 昼ゆ寄ゆの井さゆす
さゆ井やさゆ成乃水の音
足ゆ紙 除さゆ通ゆ三つ乃
ゆてあゆふ池の小舟や 青山風
ゆの寄ゆ外たゆ蓮の花ゆ
雨乃や月ゆ 赤く却ゆ れ
れあひや 末ゆの寄の 簡早
さゆ寄の何ゆ翻ゆや 寄の袖
里ゆや 静乃ゆ ゆの ゆ

寄ゆ人ゆ末ゆ ゆ乃ゆ 静の里
協 静や 掬ゆ ゆ下の水 ゆ水
立ゆ ゆ寄ゆ 接寄や 寄ゆ ゆ雨ゆ
見つめ寄ゆ ゆ ゆ雨や 緑に ゆ
白雨や ゆ ゆ ゆ上ゆ ゆ
ゆ雨ゆ寄や 寄ゆ寄ゆ 寄ゆ ゆ
東方ゆ立 末ゆ ゆ ゆ 蓮の 静

番鬱金 和蘭語レーリー 初秋仲旬盛

天保壬寅洋舶戴来品也三四月苗ヲ生ス高サ二寸斗リ唐種鬱金嫩苗ニ似タリ七月中心葉上ヨリ四歩位竹筍ノ如キ物ヲ生ス是苞也數日ヲ經テ花莖五歩斗ニシテ白色秀明花潔白四弁股二弁ハ垂テ舌ノ如シ小弁二枚心底紫色アリ可惜未明ニ發シ午時ニ終ル甘松ト鬱金ト合タル如キ清香アリ仙家ノ一奇草也尤寒ヲ恐ルヽ甚シト云

一清写生

文月や葉ゝおとるなわすれ草
文月や高ゝきそけり竜の髭
はつ秋や糸のめよりの生簀囲
ゆふ戸や生絹折目を方ゝ入る
あふぎ市ゆく花ゝ人ゝぬ動く船
生れはてや用足しふ生る閑の人
末やゆゝの白ゆゝ星の あゝ炭火
てれ川人ゝ逢ふゝ夏ゝ夏しゝ
水をアゝ四ゝ流や 生身魂
燈籠や明利 先百人面

玉菊のゆかりへ紙子の廓は
燈籠のなき世もありやなしや
あまたある紙子は廓のなかにて置して
彼ゝおゝ書きて付事

ともし火の花桔梗すや語ふ

上川寺

寶井や霧も翠すえ剣つゝく
秋夕と二度まさしぬれ𛂞萩かな
本尊は前てあらし木槿の花
あさくれや蝉もよふかも家ゐこみ

秋の日や戸を明ぬ人をとふ跡
中に膝を萩咲まちの戦の郎
花萩の枝や芽は深みへさまわかる
𛂞の野の郎まさり逃まする芽の沼れ
明まもなく霧はまさしる黄菊の郎
かへるは八時のとまされ来芭蕉かな
満はや小角の音の聲なり

弘前にて陪して首途する
小野綜父こし餞送義

詠めまはみちのく程の是の本や

雁の田とまでつゝ、罪稿五の義
さゝらしまの面て四墨の形
君所ハ自れあるうよ深う名象
茅を出れやとまるのて波茅代
外一茅の れて五重や刺の高
鶴姉や 秋 れ自れれ雁
月五重き草の表やまをす
自重うう高 ひきう樓 辞
明れ さまも 五ふ義 角
情 れ士ッ雁う雁 形 赤丈

高 ふ 松も あるく 秋 五
尾 捨 ッ ふ や 秋 の 悠
き 波 の 眼 う 波 し や 明 の 高
うう高 郷れ 高 美や 鹿 の 高
ッ 松 や 玄関 う ッる 角 力 取
初 し ッ や き う ゆ く 重 ち の 茅
結 雪 や 日 松 と 紅 色 ふ 高 ッ く
名 月 や 松 き 一 重 も 栖 む ま や し
名 月 や 自 の き の ふ 重 和 や 遠 よ

屋花を実植せしかれうせ生ぜ
稲のうちうへ咲きすし
名月や雨もきこえる虫すきき
きめらうて居るまうをうをの月
義村のちかふふまらしいるの月

良夜暫時蝕

うをみのうて居れうちぬて居れ月
白北末のう花多あるや　秋の月
赤通りを表のせ牡丹義村
あうをうて居生のきえる居ゐれ

虎のつう鳴音ふ用をうを
蛙草うを見ればつて虎の隙
波の音の岸しおうすやうを
鶏鳴やうをうを蛙しの彩の音
口の上ふうをうをうを秋の音
かるやうを笹のうをれやあるの音
常をうを人うをふやあるのやる
ひ蛙のをうを秋の夜うを
秋の花稲義ふ　おを
後へ義川の北をうを　あるの風

[illegible]尺を免水[illegible]る
月夜さへ[illegible]ひろう岡社築
治まる代末の[illegible]鮎[illegible]る
[illegible]も度々の[illegible]移す免
[illegible]家[illegible]ちう[illegible]小舟
[illegible]月よく[illegible]ば[illegible]
高[illegible]う新[illegible]
鮫[illegible]ぬう末の[illegible]れ
[illegible]代[illegible]れ[illegible]橋[illegible]
きの[illegible]

[illegible]軒[illegible]
[illegible]戸[illegible]
[illegible]の中へ[illegible]九月[illegible]
[illegible]や秋の雛
[illegible]水の面[illegible]三田[illegible]
[illegible]家[illegible]
[illegible]十日[illegible]
[illegible]菊色花

押砂臨江亭

江の空[illegible]雲の[illegible]

所澤里恵女哀悼

風の来て吹くや葉ぬけ初紅葉
寒の来る一つぬやすすき枯
病軍れて元つてそ乱り月
笠着て寒き夢ぬくめるや浪の月
山並の遠く霞て鶴帰る
ひとつ星つてつてぬれやぬ一雨
寒雲や山形のこゝろ水の音
月やはや雲間盥れ色も変ぬれ

雲宕

うすうす板れ宮ゆふ女坂
湖山や柴栗拾ひ子の手
枝柿や四畳ばかりの人

あるゝ手を解く

秋の七夕子ゆふ弦ふ
山方撫て年黄変をそ一ふ
干ものを手ものを晩稲ふ
口笛て吹く牛や夏紅葉
赤小豆煮ふ源ゆ物もみ
ものを花て出ものゆ小脇差

同異

秋乱の海山をそめなす錦のきしけを
中秋の蓬て成る栗 椒子栗
天保丙申の月十七日
嘯夢拙人乃ち誌るす
長示玩弄多
泉可以充食食不可以充泉
伐ち乃栗乃末山れ 末の実弐
眼見て後脳
葉世乃秋 錦あふくるる時

十月や井出波へもれ往生寺
初冬や流しもなし蔵瑶
はつしほや白き鳥なるけり晋
蓑笠れ猫ちりしや冬の水
望けしく菊の霜なる小春代
志きろくハ海も小はしれ竹けり代
神の木ハ人もさきして初しぐれ
まさしと末にしれのこ栽家
けしきれ通りしあさの下葉代
初ちぬ草ふも以つまだ 楞之郎

ほとゝぎす 茶見世へ置ふ落葉かな
茶の花や夕暮ごろの雨はれし
家くしのさし 茶山をもまうる 坂根外
木のまの 水の音も縁つ竹 傍り花
作りなみ 直きし池の めぐり外
唐よりも 高く 冬なり 枯尾花

二本 枝上川石壇居士大祖忌

家師八朶居士とハひとちの並も

かまわず 風縁座銭

生果まり つゆハ 軍の 枯尾花

枯すゝき人にあはすも見えてたそかるゝ
寒家の水にも煮出し枯野かれ
野ハかすみ段小松かゝおよふ芽もなく
山中枯や雲の中なる梯子の黒
道ノ見やかゝ猪ゐるぬ
なかゝ濃くほのつく耳や浪の越
冬の月おちむこの人ぬけ衣代

芭蕉會

木のまやなをなきあとも紅葉かれ
枯朶に鶏見かへるしくれの雛

祖翁百年遠忌

浅川やしくれ水の行かへり月
　金令含匹ゆ

花やかしらぬ縁の小北雲の空
葉をつけた様まて雲のしつく代
かりかうの葉も袖ぬれて月の雲
初雪や酒もさいてむかう家の日
はつゆきは波をおちつて鷗の雛
芦頭やゑみかけたる雪北風
かゝ風の中まへたつより吹の不二

象潟は庇丁ゆゑ一ゆゑよし
什の宴張つゝゆゑ出うゝ宴さの邨
袖の屋寿ゝゝく衆れ宴さうれ
故あゝて当代あれそのゆゑ乳
深山末れゝゝ宴ゝ楫の橋
楫ゝゝ人れ出て寿石代
京人も元の果ゝ楫の邨

上総長南豆山寺

岩の点や強ゝゝ十ゝ世ゝ
海ゝゝすゝの根ゝぬ長ゝ

海れゝ宴ゝよゝゝ世ゝれゝゝ代

高ゝ高ゝ

翠れ文書て結界のゝゝ代
目の根や高ゝ高ゝたつね川ゝ高
高ゝ的や石つけゝたつく宴の新
ゝゝゝ石ゝゝ寿ゝぬ鶴鈴
ゝの鶴盃も楚ゆのゝみゝ邨
出ゝ船ゝ口蕉一けを納豆汁

岩乃史羅数を巻
時百ゝ雲ゝと似つく江中義

碁の石ハ次々に打て空衣に
種蒔て秋の極り空彩ふるゝ
乳乙せや空一面青々み
海原に雲の唐に高音の郭
撥や百の舞々ふる〻まて
ゝ乙乙乃乙ゝ雲踏やしの桂
空の栗やきつせる掃除に対ふる
末吸子に嘗ゝ乙の梅

新題

人聲の市相ふるや　多角力

ゝ掃や陽に角きう岩の松の市
まめ銭まゝ空や蓬来を舞ふる
点人や笠ゝ乙ゝ空ゝ乙ゝ
ゝゝ空ふる一空竜ちゝや古ゝみ

海苔草庵

人乙ゝゝのゝ一乃市撥
芸乙や乙ゝ指法に白茅に乙の去
鬢ゝゝゝや男やゝ一の雲

新しき源氏物語の巻を聖父に捧ぐ

彩新う好き巻なる鷹の卵　芙蓉

尺余ちかきの雨の音　麻文

秋の夜や柿の葉ちる梢の売　子月

乳ゆや思ふ乳　月の宿　丁知

焼しされ人ふもいつはりの言　松什

夕秋花数み束合はすめる雑　祖文

名月や夜ゆ湯衆の鐘の響　橋井

破ふ蕎そのふを高に雲れ相　惟草

柿みち高く尺余や　鷹の卵　月

秋際れ夕や乳ちの夕まる　大布

みちき白つきや秋のを　万次

竹ちつゆや建具ゆ入る二夜　壮焚

秋ふ夜や　ふふ絵て　ふふ　莫面

はつ夜や　燃ちふ家　芙　莫畝

地の一ゆ数　まその義や女子花　於碧

人は庭　初ふも　ふふり　露ふれ　味舎

六月や　少動　ろひふふ雷のふち　墨庵

[illegible]ハ秋[illegible]　元山
[illegible]　碎車
[illegible]　節之
[illegible]　祖郷
[illegible]　西日
[illegible]　壽文
[illegible]　豆山
[illegible]　叩角
[illegible]　南枝

[illegible]や崔[illegible]子　丁知
[illegible]　苗木
[illegible]　由[illegible]
[illegible]　得蕪
[illegible]　木
[illegible]　ち
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　仕

姉のゆつ琴こゝろ異なる比　木
繁しこゝろ言さに絡て心よく　葵
先例おふて入院　吉井屋　葵
やを細の糸瓜をそゝつ　角の秋　木
井をおもしろくうれ霧の名　ち
解文書こゝたゝゝ　鶴　葵
十色よな絡た秋の名をつく　葵
古幹乃花うれさもちうう　ち
めつき桑　葵も伸る　如　自　木

雲およ兄も吉ゝ　吉新　吉八
小指れ瓜うちうみ、垣　葵
白雨の午文はうふ動葵　木
初葵よ門ハ文ものく　ち
変く我ようのぬ　先生書　葵
信ふ紙瓜球やや　鍬と新　葵
感　行て人乃ゝ　ひぬ蕨も　ち
あゝれ　ゝ　ゝく　蔦のうつめ　木
まう久まれ　の　の　末孫買　葵

内の使へも　橋　白乃うへ
秋のゝ社　清ゝ　先へ　末
法價　ゝゝ　せ　ゝ　の　ゝ
可嘗　ゝ　ゝ　遠　ゝ　ゝ
和　猪　の　出　ゝ　一　軸
狀箱　入　也　て　ゝ　遠　ゝ
砂利　ゝ　け　ゝ　ゝ　道
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
表　ゝ　二　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]
法　ゝ　簀　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ハ　表　時　計　年
硯　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　と　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
水　末　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

由深入江戸の宮京等の
ぬかすすけ伊ようようと宮殿
鼻結れ交錯草取つくふ
すのかく自ものも数珠八重ようて
しきや十ようの角力つむてね
園弱の秋ようかむ米毋子
の植蒔待れ末によきあく
ようよう物屋の庄茶屋
栗れ粗れ結ぶすすのう

畫
古
蔓
畫
古
畫
蔓
畫
古

炉塞ハ麓れ下ふ高ゆよ
畫くようきしひれようあくられ
年の夢ようせようりようれの蔓
床れ抜玉ふ抜れゆのけ
橋蔓しようて小体ふ家ようを
ちようこのようちふちふわの夷の
志雲深ちようふ笑てしを会を
しようぬる物の中泊ようをふ
浦き弁へはうふ木取ようを鹽

畫
古
蔓
畫
古
蔓
畫
古
蔓

用性むに人のしよめく　畫

口取て片よ尓るを見り乗　古

田渋の溜て葦の実の飛　蕪

素搗する瓦竈も寄の橋　畫

古手と聞てよめ尓幕うその　古

やしなひて矢くいのつおくけ　蕪

しまる扇橋り芝の損する　畫

名もの花ておくれさくもせん　古

ゆふ春音針のう操ふ釣　蕪

よろこび賑しい書て斉小果　丁古

湯り古紙ゆりぬれ田の水　柏翠

あさつきり揖子の人を振まで　乃蕪

篝笥て掛り置古し介　古

芥入し里稲ふ秡まり月の庭　翠

はれしふも啼る鵙の草笠　蕪

ウ
霞書き出璉珠ハ陰陽陰　古

上かりて更しきめぬ薬湯　翠

七ツ来る成日ハ書きれハ咲かり　蕪

[illegible]の年　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

此一枝ハ　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

夜も世をいとふ夢しかくせぬ　古翠

夫の面を月の石ゐさとる

拾松草　採波の篇　夢

入川を過れとまた和さはき　古

高元　りの稲はぬきもそのれ　翠

深しまし年球ゐとゐ影花　夢

序裏ゐも花思ふ　古

了空　菜高のゐ震む　翠

深きまとて　中ゐ　夢

塔ゐ一まをを過ゐ茨の花　波鷗

外一身は雷の一つく音　得蕪

たをつ乃義生の影歩ゐを　拙誠

ゐ乃ゐ使は乃紙叩ゐ　白起

生ゐ待を孔ゐ紙ゐ　蕪

ゐ乃ゐ乃ゐ一房の音　鴉

綱元へゐを中ゐの秋　起

人陣ゐゐゐの乃ゐ　徐

義料を殘ゐ紬殘ゐ　鴉

[illegible]

[illegible] 碑

[illegible] 柄杓井の水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢の角一の巻うら 細卯北 紀
迂宮北きたをもくらつく日の方 蕉
花ざくらのいはけなく咲る 鶏
代官へ蕊のうつくしかりけり 紀
初老きそをを菜をこしらへ 陳
中の宮沈丁の香しれて侍る 鶏
きりぎりす なきぬ七種 蕉
蕊をくきをひうらの面小降 陳
鮫百一あれをのみうみ 紀

ゆくへ宿なるをや夏北 蕉
近くうの開うしいなるかな 味
行れと市北きもの工夫して 松
生きつるなり 岡北市 鶴
きりぎりす 楊うの高てに有 竹
しつく雨やまとらうたあみ 賀
市うの名あつく祭り過 舎
きれ北 城 来はぐるみ 蕉
深草乾 あきをうの京の水 賀
舎

見ぬ世の人を我思はん

ちとせをかけて咲のこの梅つみ　賀

翁のしられのみちとせ也　夢

有きゆる世を蕉翁忌は新酒哉　翁

春を経て拾は礫ふるきあき　舍

茶ゝ賀ゝ賀ゝ　根枝子　蕉

こゝろやすくれやすくなりはる合　賀

思ひ〳〵の新米のあらしきて　舍

ちりぬるにまかせゆがまぬ　翁

なの雪ふる人家　賀

はるのうれの同方人家　蕉

春ゝ雪を城家のつまゝ一本刻ゝ　鶴

便りの雪ふるゝ沼をいひく　舍

書籠を土用老ひの七年芋　蕉

鶴ふつゝ鶴の　ゆ雪れ　枝子　賀

さゝゝゝ竹の葉也球鶴　舍

たゝゝ雪球　極ゝ　赤　鶴

代官ゝの俗　枝子ゝ　賀

實家つくの菩提いとなむ

結雪よりはやく消ぬ白鶴　舍藝

ちらちら白しかすみ浪船

移りつゝうまれ杉の青煙草　藝

何中いつて　すゝ　哉小沢　賀

なつかしゝ　隣庵ハ法印の門葉

伏見の人　鶴の飼ふつく　舍

尺ゝ　ゆ　ゆ　花の谷に　鶴

落ゝ　つゝ　おくる　三月　賀

藝

高ゝへ　雲　沼　月の雲　鼎龍

芝桂　風　北　ゝ　磯　由儀

小振舞　孫の　ゝ　ゝ　得藝

孫　ゝ　ゝ　ゝ　左

陽炎の止ゝ　ゝ　石の上　伊

ゝ　ゝ　ゝ　鶯の　藝

常ゝ　ゝ　ハ　法　ゝ　左

調へ　ゝ　ゝ言ハ　ハ　ゝ　儀

子の　ゝ　ゝ　ゝ　家も　藝

眼出一部一之年を かさねて
苔むして 悲し 松 このかげる 山の腰
たちつつ 今宵 有明の月 ゆゑ 移
ぬるかな 一の雲のよきつ たる 籍
あつ ゆゑ 一 た 遷 立 も 宿
れ 一 も 思 ふ 業 心 に みち
人の 栄耀 の ゆ 行 ま た
花 なる ぬ 末 ま れ 丘 の 年
ぬ ふ 美 て 今 所 泥 き 井 の 水

左儀 蕪左儀 蕪左儀 蕪左儀 蕪

疫 あ て 所 義 ま ひ ふ 鋪 轄
よ と 丁 雅 の 玉 辞 さ へ ぬ
意 ま 寺 の 雅 て 玉 型 中 数
末 弾 弾 ま て 天 つ ぬ と 様
ひ 姑 の 中 さ 一 を ま へ ま
生 の 分 ま て 拂 ひ ふ 業 の 代
ち ま て ま し ぬ 富 た 陳 性 美
陳 さ へ あ ま 筆 木 ま 生 に
白檀 を 挽 屑 な ま 命 れ み て

左儀 蕪左儀 蕪左儀 蕪

[illegible]の大雪　左儀

[illegible]の風呂の[illegible]　蔓

[illegible]つゝあるの老講　左

笑ふ[illegible]の[illegible]へ[illegible]　儀

[illegible]人[illegible]　蔓

[illegible]の早山　支代　左

[illegible]　儀

[illegible]の[illegible]山葵根　蔓

如雪[illegible]萩の[illegible]枝の[illegible]　得蕪

[illegible]の[illegible]　松鶴

泊り屋[illegible]相撲丈の[illegible]　蔓

[illegible]　鶴

[illegible]九ひ[illegible]日の永　蔓

[illegible]の浦の波音　鶴

[illegible]の奉[illegible]　蔓

[illegible]縫針　鶴

[illegible]の[illegible]　蔓

ふとゝろう　東京　板乃宣　候　　郭
ひろゝゝ　ゆゝ　　籠れ　石者　　蕉
重しゆさゝて　てゝ　　物　壹　　郭
狭　拵　の　肉も　　もゝ　の　　蕉
うつゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　ゝ　辺　れ　　郭
口　綿　を　用　ゝ　　ゝ　置　ゝ　　蕉
孫　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　文　乃　ゝ　　郭
はつ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　作　ゝ　ゝ　　蕉
筆　ゝ　ゝ　囲　ゝ　　ゝ　道　　　　郭

折　ゝ　を　閑　は　　つ　ゝ　ゝ　春　の　鐘　　仝
柄　を　鐄　ゝ　ゝ　　ゝ　ゝ　ゝ　　　　　　蕉
是　ゝ　を　馬　ゝ　　ゝ　ゝ　ゝ　　　　　　郭
一　は　飯　ゝ　　　　ゝ　ゝ　ゝ　　　　　　蕉
淩　宵　又　拵　ゝ　　ゝ　ゝ　ゝ　　　　　　郭
祖　父　の　筆　ゝ　　ゝ　ゝ　ゝ　　　　　　蕉
此　ゝ　ゝ　ハ　ゝ　　ゝ　ゝ　ゝ　　　　　　郭
帝　ゝ　を　入　迚　　ゝ　ゝ　ゝ　　　　　　蕉
霞　等　の　瓦　ゝ　　ゝ　ゝ　ゝ　　　　　　郭

庫裏の布れ風炉釜
やゝ肉を先乃正客
牛房ハ汁よ撰を戒屠
いつきへ共持ち先屠 置れ
逢つゆつすく娘ゆ丈
連架打言を乃れ民吉
ふゝつ共て牛蒡の乃
咲ちゝ先ゆめいよゝ宣
は移を 白ゆ白の乃 鍋

蔓
鶴
蔓
鶴
蔓
鶴
蔓
鶴
蔓

戒売の枝ゆ錦 文小右弘
ゆ乃ゝしつゝ むを京水乃
寫蓮張ゝ早出の状弘張ふて
もゝふ乃紙ゝ ゝ乃ゝ ゝ
乃ゝゝふ指ひ 栗を茹る肉
は免て同し 鹿弘 又きく
彫 文乃小蕾の下れ張乃 四
うゝて飲し 汐の国ふて
伯宝の情ふつ 了乃世ゝ ゝ乃ゝ

瓦休
拂石
乃蔓
休
石
蔓
休
石
蔓

[illegible]の杖あるにて　あれ　　休
以たりいて弁　梅ゝ立ての鶴　　石
ちりぬるをふるの小ゝ　酌　　蕚
蟹雷雲つゝて月此時に　　休
そりゝ　水ゝ蔵ゝ　椋の実　　石
盆を過ぎてもちの源　　蕚
椋ちゝて　ゆゝ　鑓出　　休
ゆゝ　やうきのちゝ　ちの酒　　石
猶法華ゝ田稲光ゝ来　　蕚

以前より新の紙れ　　休
菊ゝ　ゝ　ゝ　　石
陰ゝの年ゝ　　蕚
持ゝ　ゝ　ゝ　　休
かゝる　の碧ゝ　百日　　石
業ゝ　ゝ　白の国　　蕚
あゝ　ゝの望　屏風　　休
ゝ　ゝ　ゝ　　石
ゝの名　重ゝ　笑ゝ　　蕚

拓殖兄の面影を川辺に
行き〻て新しき月の影
すきかの角力の手すさび
利久ぬ法師を見ては
おとこ家業にはげみ
ゆめ〻しく酒をの御つかひ
ちり〻ハ雨降ぬ傘
ふる花ちる時なく西北風
赤龍のまく所畔草

休石草休石草

歌仙一折

白鷺の羽小はぎの葉
尾花此葉の人ゝつく虫
船つゝき木陰の秋の月
はぎの穂 馬ひつく
ゝゝの湖水自然を
葉をちり 秋ぞ
ゝゝを芭蕉ゝれ
波をゝゝ中也の
大ゝゝ 情狂ゝ 筆の面

御舟 得蓋 桃園 舟蓋園 舟蓋園

[illegible]みーゝ[illegible]の[illegible]　舟
幕半[illegible]　蓋
高て[illegible]狀の[illegible]　圖
[illegible]　舟
[illegible]圖乃　蓋
新[illegible]急[illegible]辻角　圖
[illegible]　舟
[illegible]　蓋
[illegible]　圖

[illegible]　得蓋
[illegible]　宗玉
[illegible]　乘之
[illegible]　蓋
[illegible]　玉
[illegible]　之
新結[illegible]内ハ[illegible]　蓋
[illegible]　玉
[illegible]　之

いつかの夕暮れ　玉義
その言の葉を通るやまの
はつこえ乃とて　笑ふ　之
撫うたの歌　ものの月　義
ふる雨　玉
湖水の波の行ふ　之
雲　義　玉
家つゝの　義　玉
歌　玉
　　之

出代のいとまを　義
すまぬ　孫　伯母の　玉
ふる雪へよるべ　之
前はうしろへの　義
雪　玉
　　之
原のやう　義
二山の人　義　はるか　寛永
　　玉
　　義
　　玉
　　之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ふ史料帝
神と佛印行厄年　枝
湯印[illegible]割義の[illegible]　葩
紙の[illegible]印[illegible]　梵
[illegible]の枝[illegible]　枝
[illegible]　葩
水口誠[illegible]升[illegible]　梵
[illegible]　枝
[illegible]　葩

標へ[illegible]ぬ　[illegible]
空[illegible]　[illegible]
[illegible]　枝
[illegible]　梵
[illegible]の[illegible]　枝
[illegible]　梵
[illegible]印[illegible]　枝
[illegible]　梵
[illegible]　枝
[illegible]境内[illegible]早[illegible]　葩

彼岸の頃のつゆ　　夜
言はぬ事のくるし　籠の鶴　　枝
酒屋

雪さしの新さうの庭や新はすの　　梅通
明るさ桜ちり果る名　　芋舎
青陽さうの山の見えぬ佛小　　巴笑
鉢うゑぬ昔や水鶏鳴　　鼎沢
さつき雨岩ぬれ水や菜の口　　淡芝
新樹蛙に高みておやまを　　九紅
人のもの寄りてきつ蓮の花　　赤雨
見し明り木の間通り筆　　文酒
撰ばてみるや俳句ちらし大　　皮同

[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　

[illegible]の[illegible]の[illegible]木[illegible]の[illegible]　長瓜
[illegible]菓子[illegible]菓の[illegible]れ[illegible]菓や[illegible]秋の[illegible]　而紅
[illegible]秋[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]月[illegible]　一清
秋[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　士前
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]月[illegible]　書廣
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]月[illegible]　荷裡
[illegible]新や[illegible]　酔雨
[illegible]人の[illegible]の[illegible]　甚岳

哭福芝齋長兄

[illegible]や[illegible]ぬ[illegible]れ　拾石
菓[illegible]園[illegible]過[illegible]尾[illegible]人[illegible]を
[illegible]福芝齋大人の[illegible]貧[illegible]、
是[illegible]減[illegible]や　秋や　[illegible]の[illegible]　二[illegible]
[illegible]　塞[illegible]
秋[illegible]や[illegible]の[illegible]の[illegible]　蓬宇
[illegible]見[illegible]ぬ浦や[illegible]れ　宮伍
[illegible]の水[illegible]　烏谷
[illegible]の[illegible]の[illegible]　保芝

秋の海うしろ[illegible]を捨て[illegible]　月栖

[illegible]　秋花菜　立京

[illegible]術は拙し雲の拙ひ[illegible]　色淵

茅舎脱て捨人[illegible]の[illegible]　修齋

紙衾や雲のしつく[illegible]　五渡

名月や[illegible]　鳴[illegible]　三菜

人[illegible]　朴[illegible]　五月[illegible]　源花

名月[illegible]　水の[illegible]　杉曉

[illegible]つまり　[illegible]　[illegible]　[illegible]

去年　明　[illegible]　雨　[illegible]　由儀

[illegible]　雪　雨相　京月　春於　[illegible]　御舟　桃園　[illegible]江　丈種

[illegible] 魂まつり　船幸
[illegible] 月　蓬聲
水音は高し　[illegible]　負嵩
行燈う　来て命出や　百の雪　五嶺
聲　[illegible]　[illegible]　秋星
眼の前は　おきもや　相[illegible]　[illegible]山
[illegible]　[illegible]　[illegible]　嵩風
[illegible]　[illegible]　[illegible]　桂寿
[illegible]　[illegible]　[illegible]　池郷

[illegible]や氣はつく　鐘の研　[illegible]　與舎
音信は　[illegible]　自の雲　性智
はつ月の　[illegible]　[illegible]　定淵
象[illegible]　[illegible]　相一葉　嵩低
秋深り　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　来て　[illegible]　[illegible]　池郷

[illegible]

[illegible]

身をこそ思へ秋や来ぬらん　柏翠

[illegible]の日比来やまさよ　何の乃悔　汎翠

[illegible]水をうしろ[illegible]　如齋

[illegible]　紀翠

[illegible]　兎口

[illegible]　得亘

[illegible]　勇卜

[illegible]

[illegible]　右廣

[illegible]　柳之

先師得業老人去年中稿十[illegible]
二日墨風[illegible]
歌[illegible]
[illegible]
六父の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]　惟一

福芝[illegible]の俳[illegible]
[illegible]越[illegible]

袖[illegible]新[illegible]のゆゝしや[illegible]人や　菓仙
[illegible]社[illegible]も[illegible]や[illegible]　優く
[illegible]も[illegible]や[illegible]　三[illegible]雄
[illegible]の[illegible]や秋の[illegible]　磯舟
[illegible]の[illegible]露の[illegible]の[illegible]　玉[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]　在笑
[illegible]の[illegible]や[illegible]の[illegible]　[illegible]好

[illegible]　野月
[illegible]の[illegible]　松青
[illegible]の[illegible]の[illegible]　一二
[illegible]の[illegible]　恩水
[illegible]や[illegible]の[illegible]　可丘
[illegible]の[illegible]や[illegible]　桃古
[illegible]や秋乃[illegible]　梅旅
[illegible]の[illegible]　三岳
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]や[illegible]　[illegible]

芭蕉葉に肉のうすきを一つ見て　林竹
高つきたるを見て　いつみ
只ひとり山家の月に笛を吹　友住
拍子　春来れば春雨　竹蔭

美しき人に出合ひ立ちもどる　雨雲
傘の柄を折れ出でぬ　清武
撫子に雨を撫で見る夏の夕　壮山
鈴ふや雨つゝ出る　伸　吾用

雪つもる出るたよりや　尾花原　一山
はつ秋は蓬のもとに虫鳴く　風雨
ちはあきや　日ふれば草の実　禾山
五十世の月に時雨の夜
手枕に聞く里人
高きや　雁　雨ふれしこゝろ　江之
秋深し　ゆくえ　水鳥の　精笑
雁の雲　ひとつあけて　雨ふる　御風
うら寒や　高きの　茄子汁　吟風

紫陽花や帯に短し襷にも　接茶
梅雨の雲重たき国の都かな　素山

ちるはなの名のさびしさや　乙州
紫陽花や日覆の下の瓶の水　雪城
大仏の石の座うつす蓮の葉　茶山
御門主新発意やこがさい佛生会　契沖
樹々のつゆ見たる樹よりおもしろ　市猿
きさらぎや水もぬるむ　子松

種まきの日やまくらの枕うらの淋しき　文山
年に成る福芝齋老人菊月
はつ雪をまくらのあたり一ぱいに
眼うつ淀む月やつくづくまはの影　鉄成
照洞の瀧に書きかけ書きかけ　柳壺
雪なつかしく北の文をもらひける　紙年
菊に花や雪に高根の紅葉文　大夢
西行ゆかしく鳴きつれや菜の日　楽室
若こうろう人きいもや辻の花　肇月

池水も身業れいろや佛生寺　若山

立あまきの乃ゝを印あれ野ゝの郎　茶雷

義ゝ義柳ゝ義はゝを八ゝの形　正彦

白ゝ雲ゝ雲ゝ立ゝ立ゝ雲ゝ雲ゝ蓮ゝの葉ゝ　昔詩

水ゝ面ゝの思ひ逢ふ日ゝを鈴の秋　蘇可

鈴ゝ虫ゝの尾ゝ花ゝ立ゝ立ゝ月ゝ　立鈴

き一ゝ鈴ゝや ふゝとゝ立ゝ立ゝ立ゝ蓮ゝの葉ふ　梅長

星ゝ穴ゝや 月ゝの乃ゝ出ゝ出ゝ出ゝ　青池

鈴虫や きの乃ゝ葉ゝ ゝ立ゝ立ゝ葉ゝ柳ゝ　高篇

石ゝ苔ゝ水ゝ ゝ流ゝ れ ゝ ゝ ゝ

小松島法華堂之俳諧一順

[illegible]　侍従みさ士
眼の前の自のもやう　留木
[illegible]　東洲
[illegible]　松翁
[illegible]　竹翠
[illegible]　松舟
[illegible]　蓋定
[illegible]　只青

[illegible]　仙庖
持[illegible]　大櫻
[illegible]　樂之
[illegible]　奎提
[illegible]　梅年
[illegible]　菊丸
[illegible]　田儀
[illegible]　苺玉
[illegible]　白起

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]この
年[illegible]を[illegible]に[illegible]を[illegible]司古
[illegible]の[illegible]れ[illegible]
[illegible]を[illegible]の中
蜂[illegible]の[illegible]
[illegible]に[illegible]
[illegible]に[illegible]の
交代前[illegible]
[illegible]
[illegible]れ振袖

睦掛
魁[illegible]
龍吟
琴舟
主拙
[illegible]
鳩峯
月夕
静宜

[illegible]
結[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
観音の[illegible]
[illegible]
夫[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雛[illegible]め
都巌
[illegible]
宗一
枚玉
女桝
[illegible]
[illegible]
瓦休

[illegible] 霧 極隨
新艘[illegible]年貢[illegible]穢[illegible]蒙 花晨
記憶[illegible]人代 用中[illegible] 甘雨
方角[illegible]佳[illegible]江家[illegible]西國 汎翠
鼻紙[illegible]うた[illegible]玩腦 樂齋
[illegible]大[illegible]紙[illegible] 桂川
[illegible]の[illegible]爭 簇 拍翠
[illegible]書[illegible]誰[illegible]到[illegible]會 抱赦
[illegible]清[illegible]日[illegible]けり 篤之

[illegible]月の[illegible] 完殆
[illegible] 樹石
[illegible]市[illegible]外 瓦村
[illegible]主場 皇羅
[illegible]花[illegible] 拙誠
[illegible]海[illegible]

下略

[illegible]の多美古其子留木閑くゝ北心
[illegible]孫等を乃ふ
[illegible]ぬ[illegible]るめのうる　由聖

惜得美士

[illegible]ぬ[illegible]ゝ[illegible]　完弼

世[illegible]風交せ　福足愛の
[illegible]男の[illegible]

[illegible]美のの[illegible]　角[illegible]　村石

老人の[illegible]
[illegible]今[illegible]　松尾義集

[illegible]て[illegible]道[illegible]秋の[illegible]　五休

角[illegible]　抱義

旧友得美愛氏[illegible]みて
[illegible]て[illegible]　為山

福足詞宗[illegible]
[illegible]

[illegible]　山子

惜得美士

秋[illegible]　竹裁

福芝齋先生の法会を屋敷にて
[illegible]孝子留木にて
[illegible]
得世無比士[illegible]

枝玉

ひとつの[illegible]あらう淋しき縣弧

文昇

白蓮佛[illegible]
十[illegible]
[illegible]

如さ人[illegible]常無[illegible]花野[illegible]

只喜

福芝先師[illegible]年の秋我草屋
[illegible]
[illegible]

法久[illegible]人[illegible]限や[illegible]の空

樂之

福芝[illegible]
[illegible]
人[illegible]告越[illegible]
[illegible]
季[illegible]
[illegible]
師[illegible]

面や秋[illegible]の身[illegible]

宗玉

病中ゝ福之叟身まうしに成て

秋風や　此ごろ世事しらぬ　おもかげ　水石

葉月十二日の夕山へ福之叟人の傳
伐岸へ送られ給ふ

哀也　新墓　水　ながしたる　雨の目　古笠

福之叟　老病身　寿の果たる
一切悔て　鄙志を捨る

名月や　雲隠れて　西へ　うつる　都巌

さまざまの　ものうつる　ものたる　月見　肉夕

小紅忌手向

行さうる　袖や　はきたる　露　不深

八朶翁身　まの果てよりの成
文政　やく　二十年　百七夢
幻の世　ゝ　ゝ　ゝ　福之叟師
為の床　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
葉月中の　ゝ　ゝ　ゝ　草
鞋　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
傷　ゝ　ゝ　ゝ　年　月の
伐　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
涙　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

日沢行者ゑて正法の道に入る
義を受し福芝齋の菊身まで
より左の歌ひとを彫く刻まれ義を
置こうを義雲にしれや芝の風　甘雨

子雨

何ゑ彫く古き木の香や　相彩集　桜川

自ら楚の人は
祖翁と称せしは日本の人
高き人や　自ら彫りしの義の人　拙誠

福芝齋先生ふ此の手の因縁や
能詩は道の義を以て本一社美
彫ゑ人より高き人の師
ふ親ふ人ふ高き人ふ
世の人ふ高き人ふ
源ふ高き人ふ去年の中秋十五夜
為に庫ふ高き人ふ我ふ家ひ
たまふ人ふ乃義ふ思ひ
彫ふ孔ふ交事ふ
疫病あふ一日ふ
辺ふ集ふて
何ふ
一ふ彫
ふて源氏物語

ふ彫ふ人秋
おふ十五日ふ彫ふ人秋
ふ彫ふ今年世ふ
ふ彫ふ紙ふ
ふ彫ふ孤遠ふ
ふ思ひ
ふて

ふ彫ふ　蔓草ふ彫ふ器風ふ彫　松鶴

[illegible]

追悼

[illegible]の[illegible]の[illegible]や　月の袖　春夜女

得[illegible]士[illegible]忘

秋の空[illegible]城[illegible]ふ日[illegible]ありぬ　白起

福芝齋祖宗一周忌

[illegible]事いとうこの[illegible]　東洲

たむけ

[illegible]の敏乃[illegible]　花晨

[illegible]や[illegible]　松毋

[illegible]　松雲

[illegible]　文生

[illegible]　載亘

[illegible]　故雄

[illegible]の[illegible]　[illegible]河

[illegible]　[illegible]

[illegible]　一鼎

[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋風は鶴の羽を引
清水とゝ流れぬ岩の鳴子引
名月や〳〵ゝ流れ去る雲なし
月や霧の晴れ野を分る雲の
義経ゝ一日の新酒さめぬ
ひゝなれ高ゝ鳴る雲の
秋風に吹るゝ雪の
あらぬ夏ゝ
赤〳〵と空ゝ晴ゝ葉の露

不克
菊荘
好山
岱青
宗一
佳節
星羅
春峨
氷壹

源一さゝ流れ去る雲
衣を住吉の乃浦に夜更
ゝ
世の捨ゝ
鶴ゝ人ゝ
ひゝ先の
ゆゝ新ゝ
八重ゝ久力ハ
ひゝ

瓦村
波鴎
稲濤
財甫
稔市
也大
華雄
うゝ
卜早

雪ふりてかこそれいろもまさるなるべし　ちゑ
あるはあるはあるはあるはあるはわかの男女一　静宜
風や清風もそよそよと天空楽　春世
杉垣一のたりのつゆ　花のうの形　南汀
高きうつ高きうつ一月の光　波汀
移りうつりてきぬぬぎ紙衣や　宗一　古戎
水きよらかにうつりてうつりて秋うつ　篤之
芋の葉うつ秋の中　おく秋の長雨うつ　玄爾
露ちるや鏡うつ風の音新　抱斜

芳草
見外
永年
梅笠
弱岳
梅司
露心
秋甫
知雪

新うゑや見ぬ物なる清美やう
ゑ新うゑ新菊　しやくしやくあるあるあるあ
菊一月乃重陽の女郎花
新の澄きのうつしめや露の玉
みるうつる月の川一はるのあ
何をうつぬうつのなるや　月の秋
芋市のおくの中　芋のうつひれ
ゆみなきてつい芋や　門鳴子
杉のうつうつうつうつ月の時

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]や　[illegible]

[illegible]　好以

[illegible]　[illegible]枝

[illegible]　仏眼

[illegible]　水の[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　静年

[illegible]　楽斎

[illegible]や　天[illegible]

物思ふ[illegible]　[illegible]や　盃の月　大櫻

石見や　[illegible]　[illegible]　小車女

[illegible]　[illegible]　大瓦

[illegible]　[illegible]　季悦

[illegible]　[illegible]　松枝

[illegible]や　[illegible]　梅里

[illegible]や　秋の[illegible]　百一

[illegible]　[illegible]　静蘭

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]千[illegible]秋[illegible]百
[illegible]其[illegible]清[illegible]忘れ[illegible]峡
[illegible]双[illegible]
[illegible]試[illegible]
[illegible]冥
[illegible]中
[illegible]岩
[illegible]

[illegible]年[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

百の月森もそなたにうつり行く　鳩岸

露消て月ふる雨に蓼の葉　女岸

うけいるやうしろの法の山　桂隨

年老ぬまことに年共北一周長伝

いとまをこふおもひよりされるかと

ふるさとにしてそなたをぬる

道清れば先へ清るの月　彼岸

鈴虫の鳴ぬ夜は涙やは爾　四季古

年比りの秋ぬる波や出爾　夕朗

蓼の葉に清るの月おもひ出ぬ　米次

死の苦悩は勢多の動の聲を

あるとなんなるこゝろ知の終の津

を山ふるの雨とこゝろの志み身

をこゝろへ仏ゝ仏にして性善せ

んゝ日は知の義に打ゝ交り交り

深の雲しうしに達よ来迄稿

仏菩薩の句象を若ばり

塔ゝ中あゝゝ世ゝ力は仏ハ

せぬ心の第一ゝ為ゝ為一殺み

すべて小初品は聖武の御
代の物にて奈良の芸術の
古代父母悦ひまうしたる
ものなり我方の
面目ともなりて高輝乃
物なるべし

墨竹の画の新たなる秋　苔木

日用平生より巡りて遅速なるれと待
おのおの清らかなる男はかるる人のよるなる
ものなり福芝齋詞宗なるも一周年
なりて遅福は一集を清らかなり清なる
紙軍扇に撰ぶ記し　春の句纂をつくる
花ゆゑ多くもちよ寂雨ゆりて芭蕉葉乃
正しき仕勝を書り又は禅話より通をし

作こゝにあり よみこゝ選ひの句をあらはせ
四季のうちあり 圖とる草の花小雪の年
採菜して画工の写させ初めおもひを
こゝ作よおもこゝ手向るよ老なへ桜
海内の風士おもこゝ一言吟玉書の
四方こゝ書こゝ音樂の堂此集をかゝこゝ
堂作こゝなりぬ連句の巻こゝ玉代

作こゝ一言孫の吟こゝて年号こゝ採返
し一百年の稱名を唱へこゝ
石溪寸若禅士の菩提を弟子屋と
堂こゝ筆こゝ編みこゝまこゝ此なかく
こゝ一つひよ限の句をおこゝ

宜雪園拙誠 豊成